



みまっし、きくまっし 小松の方言 最終回

Interview 金沢大学 人間社会学域国際学類 加藤和夫教授

1998年4月から19年間にわたって「広報こまつ」に掲載されてきた「みまっし、きくまっし 小松の方言」。最終回となる今月号では、加藤先生から執筆にまつわる思い出などを伺いました。

PROFILE：加藤和夫(かとうかずお)
福井県武生市(現越前市)生まれ。福井大学教育学部卒業、東京都立大学大学院修了。和洋女子短大助教授を経て、現在は金沢大学人間社会学域国際学類教授。平成23年度(第32回)金沢市文化活動賞受賞。専攻は日本語学、方言学、社会言語学。

Q. 加藤先生が小松の方言を調べるようになったきっかけは?
平成8年度に博物館から方言調査を依頼されたことがきっかけです。金沢大学の学生と5年間で120あまりの集落を調査しました。

Q. 方言研究に興味を持ったきっかけは?
私はもともと農家の長男で、将来は農学部に進もうと思って、高校時代は理系を選択していました。しかし、3年のときに担任から「君は農業よりも教師に向いている」と助言され、祖父が教師だったこともあり、教育学部の国語科に進むことにしました。自分で言うのも何ですが、理系にいなながら国語の成績だけは抜群によかったんです(笑)。

Q. これまでの連載でたくさんの方が市民が登場していますね。
学生達と市内全域で地元の方と交流できたのが良い思い出です。中ノ峠で宿泊したときも、大勢の学生の食事を地元のお母さん達が作ってくれました。あときの料理やお漬物は感動するほどおいしかったです。調査が終わると「今日はいっぱい方言がしゃべれて楽しかった」と喜んでくれる方も多く、連載の写真の撮影にもたくさんの方に協力してもらいました。連載当初赤ちゃんだった子が今や大学生ですから、我ながら長く続いたものだと思います。

■主な著書など
「新 頑張りまっし金沢ことば」(監修 北國新聞社 2005)、「石川さんの金沢弁かるた」(監修 石川テレビ 2008)、「マチかど方言学」(監修 「北國新聞」毎週連載 2013.8月～2014.12月)

またどこかで
お会いしましょう!

■メディア関係
現在、MROラジオ「角野達洋のあさダッシュ!」(わたのたね)にレギュラーコメンテーターとして月1回出演中。



Q. 最後に加藤先生から市民の皆さんへメッセージをお願いします。
関西や九州など、若い人が今でも積極的に方言を使う地域に比べると、北陸は方言の衰退が進んでいます。家の中でも、子供や孫に遠慮して方言がしゃべれないお年寄りが多いのは残念なことです。そんな中で、この連載が消えつつある方言を懐かしむだけでなく、少しでも小松の方言を見直し、次の世代に受け継ぎきっかけになってもらえたらうれしいですね。グローバルな時代だからこそ地域を大切に、自分達の方言にも自信を持って次の世代へ伝えてもらいたいと思います。長い間、ご愛読いただきありがとうございます。

お試し購入のつもりが定期購入に…



事例 ネット広告を見て、初回限定500円美容クリームをクレジット払いで注文した。1カ月後再度商品が届き、定期購入になっていたことが分かった。発送を止めたいが販売業者と連絡が取れない。

トラブル回避のポイント

- ◆消費者の認識が「お試し」「初回限定」でありながら、実際には定期購入契約だったというトラブルの相談が寄せられています。
- ◆通信販売を行う事業者には、事業者の名称、住所、電話番号、返品の内容などの記載が義務付けられています。商品を割安な価格で試せるからといって安易に注文せず、契約内容や解約条件を確認しましょう。

~国際交流員マルチノのこまつ新発見~ 海外に挑戦してみよう

私は来日する前、ブラジル人の友達から「魚は水が何か知らない」という面白い言葉を聞きました。それは、魚は水から取り出されるまで、自分にとって水がどれほど心地良い場所であるかに気付かない、という意味です。

外国へ行くと、多くの困難に直面します。例えば、言葉の問題です。自分が話している言葉が、誰にも通じないのは何と寂しいことでしょうか。また、日本の冬を初めて経験したときは、寒暖差の少ないブラジルがとても懐かしく感じられました。失って初めて当たり前だと思っていたことのありがたみに気付きました。

では、人はなぜ心地良い故郷を後にして、異なる環境に飛び込むのでしょうか。それは、成長するためだと思います。海外で暮らす日本人と日本にいる日本人とでは大きな違いがあります。ブラジルで出会った日本人は、視野が広く考え方も柔軟で、相手の意見に対してなぜそう考えたのかを理解しようとします。それは彼らが異なる環境に身を置き、様々な文化背景を持つ人と話してきた経験によって培われたものだと思います。また海外に行くことは、故郷の長所を見つけ、その価値に気付くきっかけにもなります。

春になると日本では新しい1年が始まると感じる人が多いようです。今年ぜひ海外に挑戦してみませんか。広い視点から柔軟に考えることのできる思考力を養い、そして、ふるさと小松の長所を見つけてください。



▲留学生として日本に来た日。東京外国語大学前のモニュメントにて。